

天竜杉使いロッドホルダー

浜松市内の企業 × 静岡文化芸術大生

浜松市内の企業と静岡文化芸術大の学生が連携して商品化した天竜杉製のロッドホルダー（釣りざお掛け）「極（きわみ）」が25日、同市中区のイシグロ浜松高林店などで発売された。（浜松総局・内山元志）

商開発に参加したのは、地域を盛り上げようと同市中区のエネジンの呼び掛けて昨年発足した「はままつ応援隊」の加盟企業など数社。「大人が楽しめる趣味の部屋づくり」をコンセプトに、1年以上かけてアイデアを練り、ロッドホルダーを具現化した。

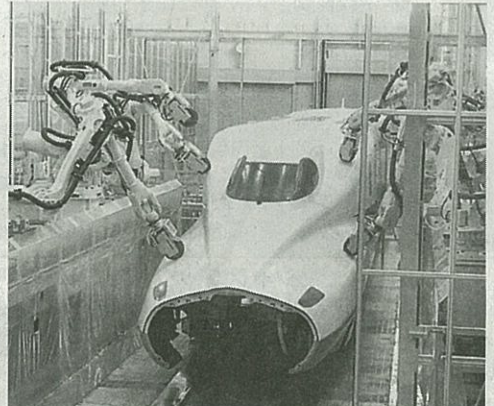
「さおを立て掛けるタイプが主流の中、市場では珍しい横置き型とし、壁掛けも可能に。地元の杉素材で高級な雰囲気を狙った。二刀を飾るように、自慢のさおを部屋で眺めてほしい」（柳岡彰イシグロ販促企画係長）との思いを込めたという。製作に当たったのは同市北区の仲田建築。仲田伸吾さん（42）は「見た目、使い勝手などイシグロさんと議論を重ねた。さおを置く部分のアーチ（曲線）

と間隔にこだわった」とと仕上がりに自信をのぞかせる。箱のパッケージデザインは同大デザイン学部2年の佐藤梨奈さん（20）らが手掛けた。陰影を付けたリール付きの釣りざおの写真をバツクに「極」の文字が引き立つ構図で、高級感の演出を試みた。製品は焼き杉とナチユラルの2色を用意。税別1万2800円。

高級感演出、イシグロで販売開始



大学生と企業のコラボで商品化した天竜杉のロッドホルダー
25日午前、浜松市中区のイシグロ浜松高林店



東海道新幹線の全般検査を行うJR東海浜松工場の新ライン
＝8月上旬、浜松市中区（同社提供）

新ライン1月稼働

大規模改修中のJR浜松工場

JR東海は25日、東海道新幹線の車両の全般検査を担う浜松工場（浜松市中区）のリニューアル工事がおおむね完了し、2017年1月5日に新たな検査・修繕ラインを稼働すると発表した。大地震が発生しても機能を維持し、新幹線の長期不通を回避するため、建物に耐震化。ラインも再構築し、検査日数を短縮した。

工場建物は約7割を建て替えた

残す既存建物も18年夏までに補強し、耐震性を高める。複雑に枝分かれしていたラインを一方方向にしたことで、検査日数を15日から14日に1日短縮できるという。これにより、年間で東京ー新大阪間約70往復（約7万5千キ）分、臨時列車運行などに余裕が出るという。

作業環境改善や検査精度向上のため、車両先頭部の研ぎ作業や台車部品の寸法測定の一部などを機械化した。日本で初めて鉄道車体の水性塗装ロボットも導入した。古い建物の撤去など工事の全工程は19年3月までに完了する予定。

TKC 新会長に坂本氏 全国会

全国税理士、公認会計士の専門家集団。会計士ら約1万1千人で組織するTKC全国会は25日、新会長に、現副会長で税理士法人「坂本&パートナー」（浜松市中区）理事長の坂本孝司氏（60）写真が就任すると発表した。就任は2017年1月1日付。県内からの会長就任は初めて。坂本氏は浜松市生まれ。TKC静岡会の会長などを歴任したほか、中小企業庁・金融庁「中小企業の会計に関する検討会WG」委員などを務めている。全国会の会長就任について「われわれは税



任は2017年1月1日

トマト品薄

東京都中央卸売市場への野菜全般の入荷は横ばい。キャベツやハクサイなどの大型野菜、レタス、セロリ、ブロッコリーなどの秋冬野菜は増えてきている。洋菜類は高値基調だが、入荷量が増え価格が一段下がりつつある。葉物類は荷動きが悪いものの、相場はもちろぬ。24日の低温や降雪で今週末は野菜全般に入荷が少なくな

静岡地方最低賃金審議会の答申に基づき、鉄鋼・非鉄金属製造業、各種商品小売業など5産業の最低賃金について時間額13・15円の引き上げを決定した。発効日は12月29日。影響を受ける労働者は推計約8100人。